山行報告書

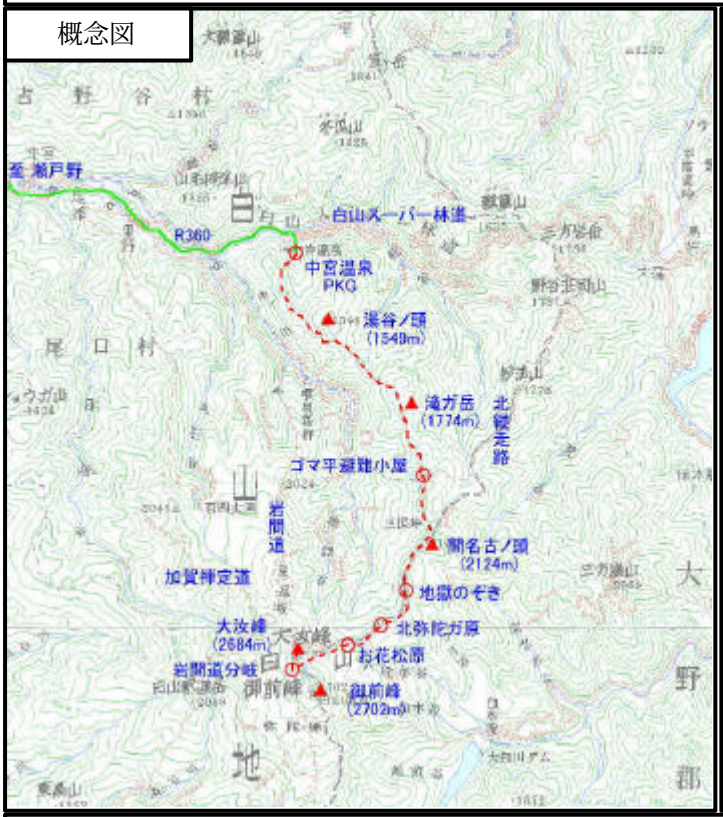
報　告	平成14年10月28日

山名（山域）	大汝峰[2684m]　(白山)	目的	紅葉狩り＆残雪期下見
登山期間	2002年10月11日(金)～14(月)	形態	避難小屋泊（テント携行）

メンバー	ＣＬ	畑　　講平	ＳＬ		会計		記録	

【行動記録】　10/11(金)　岡崎IC(2025) === 白鳥IC(2235) === 中宮温泉PKG(035)TS1
10/12(土)　TS1(710) --- 登山口(725) --- 清浄坂(900) --- とちのき坂(1010) --- しなのき平避難小屋(1100,1115) --- 滝ガ岳登り(1225) --- ゴマ平避難小屋(1415)TS2
10/13(日)　TS2(515) --- 間名古ノ頭(635) --- うぐいす平(725,730) --- 地獄のぞき(735) --- 北弥陀ヶ原(815) --- お花松原(945) --- 大汝峰(1105,1140) --- お花松原(1220) --- 北弥陀ヶ原(1300) --- 地獄のぞき(1320,1325) --- うぐいす平(1330) --- 間名古ノ頭(1400) --- 三俣峠(1405) --- ゴマ平避難小屋(1440)TS3
10/14(月)　TS3(530) --- 滝ガ岳(640,650) --- しなのき平避難小屋(720,730) --- 湯谷ノ頭(745) --- とちのき坂(810) --- 清浄坂(845,855) --- 登山口(930) --- 中宮温泉PKG(940) === 白鳥IC(1320) === 岡崎IC(1455)

概念図



＜行動日誌＞　10/12(土)　快晴、微風
　中宮温泉には、５０台ほど駐車可能な広い無料駐車場と立派なトイレ（夜間閉鎖）がある。湯谷右岸に沿って１０分ほどで対岸に「中宮道登山口」の看板が見つかる。アザミの群生地を過ぎると高度差３００ｍの急登が始まる。登りきった標高１１５０ｍ辺りから暫くは尾根が痩せている。ここを過ぎると整備された登山道が続く。明るいブナ林の中、気分良く歩ける。高度を上げるほどに景色は緑から黄色,赤へと変わっていく。振り返ると紅葉の山肌の彼方に今春冬瓜平までで断念した笈ガ岳が姿を見せている。石畳の上を歩くようになるとしなのき平避難小屋は近い。和かな秋の陽射しを浴びながら、ブナ、ダケカンバの黄葉、カエデの紅葉を愛でながら気分良く歩く。ゴマ平避難小屋（平成１１年新築）は紅葉真っ盛りの中にあった。水場は小屋の裏手から５０ｍのところにある。松任市のＴ.Sさんと酒を飲みながら白山の話題で盛り上がる。
10/13(日)　快晴、微風
　足元が見える程度になってから歩き始める。ゴマの頭まで高度差１５０ｍを何回もジグザグを繰り返しながら登っていく。

三俣峠から間名古ノ頭（山頂は巻いている）まで登ってしまうと、あとは緩やかな起伏を繰り返す坦々とした道が続く。地獄のぞきからは地獄谷、仙人谷に落ちる火の御子峰の荒々しい姿が一望され、優美な白山の別の一面を覗かせている。地獄のぞき（Ｃ２１６８ｍ）から少し下り、登り返すと北弥陀ヶ原となる。北アルプスを借景とした草地に点在する池塘、青空に映えるハイマツと大岩の取り合せが如何にも日本庭園風の景観を呈している。花の時期にも訪れたいものだ。悠々とした気分で北弥陀ヶ原を闊歩し展望を楽しんでいると、突然深いハイマツ帯へと一転する。背丈以上に成長したハイマツに”バリカン”を入れたような登山道が続いている。抜け出ると再び展望が開け、正面に剣ヶ峰、大汝峰が大きく見える。お花松原のナナカマドはほとんどが落葉し赤い実だけとなっていた。真っ赤な葉が残っていたら・・・、さぞかし見事な景観であろう。岩間道、室堂分岐から大汝峰までは約１０分の登りである。１１時過ぎ山頂に到着する。もちろん３６０度大展望が広がる。昼飯を食べながら地図を広げ、笈ガ岳、人形山、猿ヶ馬場山・・・など白山周辺の山々を確認する。午後の陽光を浴びて、山肌の紅葉が一際鮮やかに映える。
10/14(月)　晴れ、微風、14℃@ゴマ平避難小屋
　紅葉の中、余韻に浸りながら中宮温泉へと下る。ダケカンバの黄葉の林は黄金色の光に包まれ幻想的だ。

【感想】　中宮温泉から室堂まで２０ｋｍと長い道程のためか登山者は少ない。登山道は良く整備されているので、ゆったりと白山の自然を楽しむお奨めのコース。
【残雪期の下見結果】　通行困難ではないが慎重な行動が必要な思われる箇所は２ヶ所ある。
①登山口の急な階段が雪で埋没あるいは凍結している可能性がある。
②登山口からの急登を登りつめたＣ１１５０ｍから暫くの区間がナイフリッジになる。